

日本の信徒発見 150 周年まであと 1 年

13時、信者らは分かれて浦上の4つの秘密教会跡に集合。大橋方面(サンタ・クララ教会跡、聖フランシスコ・ザベリオ堂跡)からは被爆マリア像を、本原方面(聖マリア堂跡、聖ヨゼフ堂跡)からは教会の旗をそれぞれ先頭に



浦上教会

祝日(3月17日)を迎える準備の年として、この3月16日、長崎中地区評議会主催により「日本の信徒発見150周年記念聖母行列と前年ミサ」が行われた。

先祖の模範から 教区の歩むべき道を

1865年3月17日の「信徒発見」の出来事から、来年で150周年。その「日本の信徒発見の聖母」の

大浦天主堂

3月17日「信徒発見の記念日」に、高見三明大司教司式によるミサが19時から国宝大浦天主堂でささげられた。

ミサの説教で高見大司教は、教皇フランシスコが就任以来「自分の殻から出る」よう説いていることを紹介し、アブラハムが神の示す地に「出掛けた」こと、イエスも神でありながら人間となることで「出掛ける」者となられたこと、浦上のキリシタンも命



キリストと先人に学ぶ 命を懸けて出掛けていく信仰

切って今回の大役を引き受けた「信仰」があり、現場で朗読劇に、会衆は149年前の出来事の目撃者となった。

子たちに示したが、彼らはそれを理解せず逃げ出した。しかしキリシタンたちは、しるしも与えられず希望もほとんどない中で信仰を伝えてきた」と語った。そして、先祖

主のご復活、おめでとうございます。キリストは、ご自分の死と復活によって全人類を罪と死から解放し、洗礼を通してその救いの恵みを与えてわたしたちを神の子とし、教会共同体の交わりにすべての人々が加わるようわたしたちの働きを求められます。



2014年復活教書 教区代表者会議は教区百年の計

大司教ヨセフ 高見 三明

1.「教区代表者会議」とは

さて、いよいよ5月4日から教区代表者会議または教区シノドスが始まります。この会議は、「教区共同体の全体の善益のため、教区司教を助けることを目的として選出された部分教会の司教及びその他の信者の集会」(教会法第460条)のことです。これは、特に新しい教会法が公布されて(1983年)以来、公会議による刷新を実施する重要な手段と見なされて、世界中の多くの教区で開催されてきました。実際には、「教区司

2. なぜ「教区代表者会議」開催なのか

では、なぜ教区シノドス開催なのでしょいか。大浦天主堂での信徒発見はさらなる迫害を引き起こしましたが、弱体化し憔悴した日本の教会は「復活」し、キリシタン禁制の高札撤去から第2次世界大戦が終わるまで「不自由」な中にも徐々に発展しました。戦後憲法によって信教の自由は保障されたものの、経済的・物質的な豊かさが優先され、核

家族が過半数を占め、特に30年ほど前から結婚制度は重要性を失い、単独世帯、少子高齢化が顕著になっていいます。交通や情報の手段が急速に発達し、多様な価値観が尊重されて、絶対的な倫理基準は敬遠され、神に対する信仰と信仰に基づく希望と愛は力を発揮することが困難になってきています。ここ10年の信者の数と信仰生活の質から見ると、日本の教会はほぼ足踏み状態にあります。長崎教区の場合はむしろ後退しています。「この世の神」が多くの人の目をくらまし、「福音の光が見えないように」しているのでしょうか(IIコリント4・4参照)。

このような時だからこそ、しるし立ち止まって、先祖たちの信仰を思い起こし、自分たちの信仰生活はこれでよいのか、どのように教会を理解し、これからその教えをどのように実践したらよいのかなどを、聖霊の導きのもと、自らに問いかけ、共に考え、分かち合い、今後の教区の方向と生き方を明示する妙案を見いだす必要があります。その際、聖書、教会の教え、特に第2バチカン公会議の教えを基本にしなければならぬことは言うまでもありません。

その妙案を、教区全体で3年かけて準備し、中央委員会を中心に「提言案」という形にまとめました。その「提言案」を教区シノドスで代表議員たちが一つ一つ審議し、採択します。そして来年2月19日の「大浦天主堂献堂150周年記念ミサ」において、わたしがその提言に署名して承認し、さらに、3月17日の「日本の信徒発見150周年記念ミサ」において公表し、同時に教区シノドスは閉幕します。その後、わたしは、教区シノドスの成果を司教協議会に報告することになっています。肝心なことは、教区共同体全体が公表された「提言」を自らの「善益」をもたずとも受け止め、神の助けを祈り求めつつ、一致協力しながら、実現に向けて努力していくことです。

3. 日本および全世界の教会と共に歩む

フランシスコ教皇様は、今年1月15日の一般謁見で「洗礼の重要性についての話の最後に、日本の信者たちが司祭のいない

迫害の中で洗礼を受けることによって信仰を伝え、教会共同体を存続させたことは偉大なことであり、模範とすべきことです」と強調されました。そして「日本のキリスト教共同体は、隠れていたにもかかわらず、強い共同体的精神を保ちました。洗礼が彼らをキリストのうちに一つのかたちとしたからです。彼らは孤立し、隠れていましたが、つねに神の民の一員でした」と言われました。日本の教会は、孤立していましたが、ローマおよび全世界の教会と見えないきずなで結ばれていたのです。まして、長崎の潜伏キリシタンたちは、日本の教会に属し、その歴史をつくっていました。そのため、信徒発見は長崎で起こった出来事ですが、「日本の信徒発見」と言うべきです。事実、信徒発見を記念してフランスから贈られて大浦天主堂入口に設置されているマリア様のご像の台には「日本の聖母」と刻まれています。そこで、3月17日は、これまで「長崎の信徒発見の記念日(任意)」でしたが、典礼秘跡省の認可を得て、来年の150周年から日本の教会に固有の「日本の信徒発見の聖母」の祝日になります。

教区シノドスは長崎教区の行事ですが、それを通して日本教会、ひいては全教会のために貢献し、共に一つの教会を形づくるという意識を持ちたいものであります。そして、何よりも大切なことは、教区シノドスの成り行きに関心を寄せ、必要に応じて意見を述べ、特にその成功のために熱心に祈ることです。神は「わたしたちが求めたり、思ったりすることすべてを、はるかに超えてかなえることのお得意になる方」(エフエソ3・20)だからです。

皆様方の最初の教区シノドス開催に関して、それは、潜伏キリスト信者発見150周年記念を視野に入れたものでもあり、長崎大司教区全体にとってお恵みと祝福の時です、と申し上げたいと思います。わたしは、このシノドスが、福音の喜びを皆様の周囲の人々により熱心に、より献身的に伝えるために刺激を与えることができるよう、あなたと、司牧にたずさわるすべての方々の上に聖霊の御助けを祈り求めます。

(教区シノドス開催に対する高見三明大司教に宛てた駐日教皇大使ジョセフ・チェノットウ大司教のメッセージ 2014年2月17日付)



カトリック長崎大司教区 広報委員会
〒852-8113 長崎市上野町10-34
カトリックセンター内
Tel. 095-843-3869
Fax 095-843-3417
振替口座 01880-5-2699
発行人 大 水 文 隆
印刷所 株式会社 藤木博英社

列聖感謝ミサ

4月27日、ヨハネ23世とヨハネ・パウロ2世の列聖式が行われます。ミサを通して、長崎教区でもその喜びと感謝を分かち合いたしましょう。
日時 5月3日(土) 10時
場所 カトリック浦上教会

ミカエル 道向 栄神父 帰天



2月26日午後7時、急性肺炎のため五島市の五島中央病院にて帰天。87歳。1926年9月18日、五島市生まれ。三井栄教会出身。52年3月19日、浦上教会で高見三明大司

大浦天主堂で司祭叙階。同年4月青砂ヶ浦助任、53年7月紐差助任、55年2月三浦町助任、同年6月大佐志助任、57年12月貝津主任、59年5月井持浦主任、63年2月桐主任、69年4月土井ノ浦主任、75年4月鯛之浦主任、81年5月鹿子前主任、95年4月香焼主任、98年4月諫早主任、2005年4月引退後、五島市へ。

2月28日浦上教会信徒会館で通夜。葬儀・告別式は3月1日午前11時、浦上教会で高見三明大司教司式のもとに行われた。通夜の説教は同郷の川上忠秋師(深堀小教区)が務め、いつも周りを楽しませる会話、赴任した先でミサの依頼が増え、後任の司祭から感謝されていたことなど、参列者がうなずくような例を挙げながら、故人の60年余の司祭生活を振り返った。さらにラテン語の Pontifex(橋を架ける人)という言葉を取り上げ、道向師が神と人との橋渡しをする役割を十分に果たして天の国へ帰られたと述べた。

鯛之浦小教区での主任時代に、神学生として指導を受けた葛嶋秀信師(相浦小教区)が葬儀ミサの説教を務め、神学生・志願者の養成が重要であるといつも話しておられ、実際に尽力してくださったと体験を交えて話した。歴任した小教区からは、福岡教区長の宮原良治司教、4人の教区司祭が誕生しており、ここ数年、道向師のもとに集まるのを楽しみにしていた。

信徒発見150周年と高山右近列福に向けて
これだけのことは知ってほしい ④

ミサとみ言葉に生かされて

仙台教区司祭 首藤 正義

ミサは日々新しい出来事である

数十年前に初めて長崎を訪れた時、平日のミサにもかかわらず、たくさんの信者さんがミサに参加している姿を見て、さすがに長崎だと感心した。黒崎の教会では、まだ暗いうちから提灯の明かりを灯して、人々が続々と教会に集まり、鐘の音に合わせて朝の祈りが始まり、そしてミサが続く。

昨年、ある人から誉められた。ミサにあずかって、祈りに深く入ることができた、というのである。その方は日本語を全く理解しない外国の方である。

私は司祭叙階から36年が過ぎたが、ほとんど毎日ミサを捧げている。捧げたミサの数を数えたことはないが、大変なものである。時々、「毎日、同じミサを捧げて、機械的にならないのですか」と尋ねられることもある。

また、批判的に「司祭は聖体を作るためのマシーンだ」という言葉を耳にすることもあった。それらの言葉に対してコメントする言葉を持たない。言葉というものはそれを発する人自身を表すものである。

1975年、神学生の時、5カ月ほどインドにいたことがある。そこで、貧しい人のために一生懸命、働いている修道士たちと出会った。その時、私はこの人たちのような生き方はできない、と感じた。なぜなら、彼らの生活は単純・単調そのもので、毎日、同じことの繰り返し、と思った。ところが、しばらく彼らと生活を共にする中で、彼らの生活は決して同じことの繰り返しではない、ということに気づかされた。彼らの毎日は、一日一日が新しいのである。その内面を見ることがなく、目に映る外面だけを見ていた時には気づかなかったことである。

司祭叙階以来、毎日ミサを欠かすことなく捧げていると先に記したが、私にとってのミサはインドの修道士のそれと同じなのである。初めてミサを捧げた時と同じ気持ちを持って、い

つもミサを捧げさせてもらっている。自分にとって掛け替えのない大切なことである。聖体を配る時も、私たちのために人となってこの世にいられたキリストをお配りする役割を頂いている、という気持ちを持って。

ミサは私たちの信仰表明である

ミサの立ち居振る舞いも同じことである。ミサに対する自分の信仰表明だと思っている。自ずと、一つ一つの言葉が大切となり、唱えるというよりも、祈るという言葉がふさわしい。福音朗読は神の言葉が伝わるように、心掛けて。

二十数年前、宣教師としてブラジルのアマゾン流域で働いていた時のことを思い出す。アマゾン河の中州にある小さい村ボン・ヴェントでのことである。

一年に数えるほどしかミサがない村である。雨季に備えて高床式になっている聖堂で、ミサの準備をしながら、係りの者と言葉と、ミサを交わしていた時、一人の老人が聖堂に入ってきた。

彼は静かにひざまずき、恭しく頭を深く下げ、そしてベンチに座ったのである。ミサ前の一時は子どもたちが走ったり犬がほえたりして、喧噪そのものである。そんな中でこの老人の、ひざまずいて礼拝する姿は、騒音の中で一瞬の沈黙が訪れたような、崇高なものとして私の目に映ったのである。これから行われるミサに対する彼の心がその姿の中に現れているのを見ることになった。

人はついつい自分の信仰表現ができないことを周りのせいにしてしまうことが多い。ミサ前に、聖堂でおしゃべりが多いとか、聖堂が折る雰囲気

気に欠ける、とか。しかし、ボン・ヴェントの聖堂は、普段は子どもたちの学校としても使われ、聖櫃もないし、十字架もない。祭壇は先生が授業で用いる小さな机である。窓はなく、屋根はコケイロで葺かれた小屋のようなものである。しかし、そのような中でボン・ヴェントの老人は、自分の信仰をその立ち居振る舞いで表現し、その姿が二十数年たった今も、私の心に生き生きと残っているのである。

もう一人忘れられない人がいる。やはりアマゾンの、ピカイという村のエネジーノさんである。彼はハンセン病を患っていた。ピカイでミサが行われる時には、まず彼を訪問することになっていた。彼はそのことを知っていたので、不自由な身に洗い晒しのワイシャツを着て、聖体拝領の準備をして、待っていてくれるのである。聖体を頂く時、指がなくなった手を合わせる彼の敬虔な態度にはいつも感心させられた。聖体拝領が終わると、ラジオから流れるリーノ司教さんのお話を語ってくれた。そして、私が船でカベラ(聖堂)へ向かう時は、不自由な両腕で体を運びながら、川岸まで見送ってくれるのである。

信仰は、周りのがどのような状況であろうとも、また自分自身が大変な重荷を背負っているように、その中でその人がどのように自分の信仰を生きているのかにかかっている。そして、その生き方は他人に伝わり、他人の生き方に大きな影響を及ぼすのである。

腕で体を運びながら、川岸まで見送ってくれるのである。

信仰は、周りのがどのような状況であろうとも、また自分自身が大変な重荷を背負っているように、その中でその人がどのように自分の信仰を生きているのかにかかっている。そして、その生き方は他人に伝わり、他人の生き方に大きな影響を及ぼすのである。

腕で体を運びながら、川岸まで見送ってくれるのである。

信仰は、周りのがどのような状況であろうとも、また自分自身が大変な重荷を背負っているように、その中でその人がどのように自分の信仰を生きているのかにかかっている。そして、その生き方は他人に伝わり、他人の生き方に大きな影響を及ぼすのである。

腕で体を運びながら、川岸まで見送ってくれるのである。

信仰は、周りのがどのような状況であろうとも、また自分自身が大変な重荷を背負っているように、その中でその人がどのように自分の信仰を生きているのかにかかっている。そして、その生き方は他人に伝わり、他人の生き方に大きな影響を及ぼすのである。

腕で体を運びながら、川岸まで見送ってくれるのである。

信仰は、周りのがどのような状況であろうとも、また自分自身が大変な重荷を背負っているように、その中でその人がどのように自分の信仰を生きているのかにかかっている。そして、その生き方は他人に伝わり、他人の生き方に大きな影響を及ぼすのである。

腕で体を運びながら、川岸まで見送ってくれるのである。

信仰は、周りのがどのような状況であろうとも、また自分自身が大変な重荷を背負っているように、その中でその人がどのように自分の信仰を生きているのかにかかっている。そして、その生き方は他人に伝わり、他人の生き方に大きな影響を及ぼすのである。

腕で体を運びながら、川岸まで見送ってくれるのである。

信仰は、周りのがどのような状況であろうとも、また自分自身が大変な重荷を背負っているように、その中でその人がどのように自分の信仰を生きているのかにかかっている。そして、その生き方は他人に伝わり、他人の生き方に大きな影響を及ぼすのである。

腕で体を運びながら、川岸まで見送ってくれるのである。

信仰は、周りのがどのような状況であろうとも、また自分自身が大変な重荷を背負っているように、その中でその人がどのように自分の信仰を生きているのかにかかっている。そして、その生き方は他人に伝わり、他人の生き方に大きな影響を及ぼすのである。

腕で体を運びながら、川岸まで見送ってくれるのである。

信仰は、周りのがどのような状況であろうとも、また自分自身が大変な重荷を背負っているように、その中でその人がどのように自分の信仰を生きているのかにかかっている。そして、その生き方は他人に伝わり、他人の生き方に大きな影響を及ぼすのである。

腕で体を運びながら、川岸まで見送ってくれるのである。

信仰は、周りのがどのような状況であろうとも、また自分自身が大変な重荷を背負っているように、その中でその人がどのように自分の信仰を生きているのかにかかっている。そして、その生き方は他人に伝わり、他人の生き方に大きな影響を及ぼすのである。

腕で体を運びながら、川岸まで見送ってくれるのである。

信仰は、周りのがどのような状況であろうとも、また自分自身が大変な重荷を背負っているように、その中でその人がどのように自分の信仰を生きているのかにかかっている。そして、その生き方は他人に伝わり、他人の生き方に大きな影響を及ぼすのである。

人事異動・任命

(一) 内は前任地

▼教区(4月27日着任) (1)は3月23日、(2)は4月6日

川添 猛師 引退 (福岡・帯山主任)

片岡 久司師 稲佐主任 (出津主任)

小瀬良 明師 佐々主任 (教区本部事務局長)

山内 実師 真手ノ浦主任 (札幌・旭ヶ岡の家付)

鳥瀬 文武師 水ノ浦主任 (紐差主任)

中濱 敬司師 浦上助任 (稲佐主任)

下谷 英知師 教区本部事務局長

岩本 繁幸師 教区会計・法人事務所長

尾高 修一師 紐差主任 (仲知主任)

川原 昭如師 大司教秘書・教区書記官

本田 靖彦師 仲知主任 (真手ノ浦主任)

(早岐主任)

山口竜太郎師 出津主任

鶴巻 健二師 木鉢協力司祭

山添 克明師 曾根主任 (浦上助任)

野濱 達也師 早岐主任 (福江・井持浦担当)

川端 志範師 浦上助任 (新司祭)

松村 信也師 立山修道院

ジョン・クラークスン師 東京・ロヨラハウス

大木章次郎師 福岡・伊万里の聖母修道院付

ディアス・マヌエル師 東京・上石神井修道院

▼コンベンツアル聖フランシスコ修道会
末吉 矢作師 東長崎助任
(けがれなき聖母の騎士修道会本部修道院付)

西田 正師 東長崎助任 (東長崎助任)

内野 洋平師 鹿兒島・大笠利主任(東長崎主任)

▼フランシスコ会
関口 七郎師 本原協力司祭(東京瀬田修道院)

山口竜太郎師 出津主任

鶴巻 健二師 木鉢協力司祭

山添 克明師 曾根主任 (浦上助任)

野濱 達也師 早岐主任 (福江・井持浦担当)

川端 志範師 浦上助任 (新司祭)

松村 信也師 立山修道院

ジョン・クラークスン師 東京・ロヨラハウス

大木章次郎師 福岡・伊万里の聖母修道院付

ディアス・マヌエル師 東京・上石神井修道院

▼コンベンツアル聖フランシスコ修道会

末吉 矢作師 東長崎助任

西田 正師 東長崎助任 (東長崎助任)

内野 洋平師 鹿兒島・大笠利主任(東長崎主任)

▼フランシスコ会

関口 七郎師 本原協力司祭(東京瀬田修道院)

作りに励んでいた。彼は毎朝、フー神父が作った聖堂でミサを捧げ、祈っていた。ある時彼は、自分が生涯を捧げた主に出会いたいという望みを抱いた。そして毎日一生懸命祈った、という。多くの聖人たちは主に出会っているのに、どうして主は私に現れてくれないのか、とますます熱心に祈ったのである。そして、ついにある時、主の声を聞いた、という。その時、彼は「私は毎日2つの手紙をあなたに送っている」という声だった。

その時以来、彼はミサのたびに読まれる2つの朗読を「主から自分に特別に送られた手紙」としてその日の糧として生きている、ということとを語ってくれた。その時の彼の顔は主と出会った喜びに満ちていた。その喜びがその話を聞く私たちにも伝わってきた。

主は私たちにも毎日、特別な手紙を送って下さっている。

この修道士は、かつてフランスの教区司祭であった。シャルル・ド・フー神父の精神に惹かれ、修道士になり、アルジェリアまで来たのである。高齢になり、道路の補修などの労働者として午前中だけ働き、午後は祈りとロザリオ

腕で体を運びながら、川岸まで見送ってくれるのである。

信仰は、周りのがどのような状況であろうとも、また自分自身が大変な重荷を背負っているように、その中でその人がどのように自分の信仰を生きているのかにかかっている。そして、その生き方は他人に伝わり、他人の生き方に大きな影響を及ぼすのである。

腕で体を運びながら、川岸まで見送ってくれるのである。

信仰は、周りのがどのような状況であろうとも、また自分自身が大変な重荷を背負っているように、その中でその人がどのように自分の信仰を生きているのかにかかっている。そして、その生き方は他人に伝わり、他人の生き方に大きな影響を及ぼすのである。

腕で体を運びながら、川岸まで見送ってくれるのである。

信仰は、周りのがどのような状況であろうとも、また自分自身が大変な重荷を背負っているように、その中でその人がどのように自分の信仰を生きているのかにかかっている。そして、その生き方は他人に伝わり、他人の生き方に大きな影響を及ぼすのである。

腕で体を運びながら、川岸まで見送ってくれるのである。

信仰は、周りのがどのような状況であろうとも、また自分自身が大変な重荷を背負っているように、その中でその人がどのように自分の信仰を生きているのかにかかっている。そして、その生き方は他人に伝わり、他人の生き方に大きな影響を及ぼすのである。

腕で体を運びながら、川岸まで見送ってくれるのである。

信仰は、周りのがどのような状況であろうとも、また自分自身が大変な重荷を背負っているように、その中でその人がどのように自分の信仰を生きているのかにかかっている。そして、その生き方は他人に伝わり、他人の生き方に大きな影響を及ぼすのである。

腕で体を運びながら、川岸まで見送ってくれるのである。

信仰は、周りのがどのような状況であろうとも、また自分自身が大変な重荷を背負っているように、その中でその人がどのように自分の信仰を生きているのかにかかっている。そして、その生き方は他人に伝わり、他人の生き方に大きな影響を及ぼすのである。

腕で体を運びながら、川岸まで見送ってくれるのである。

信仰は、周りのがどのような状況であろうとも、また自分自身が大変な重荷を背負っているように、その中でその人がどのように自分の信仰を生きているのかにかかっている。そして、その生き方は他人に伝わり、他人の生き方に大きな影響を及ぼすのである。



川添猛師が引退

セバスチアノ 月24日南松浦郡生まれ。桐教会出身。60年3月15日司祭叙階。同年紐差助任、61年浦上助任、63年西木場主任、69年3月早岐主任、同年9月船越主任、70年鹿子前主任、81年滑石主任、88年浦上主任(司教総代理)、97年福岡教区派遣(大江・崎津・本渡主任、04年熊本・帯山主任。引退後、長崎大司教館へ。

54年にわたる司牧生活に敬意と感謝を表し、これからの健康を祈りたい。
略歴 1932年4

▼神言修道会
ロボ・フェリックス師 新潟・能代(西町助任)

▼聖アウグスチノ修道会
山野 聖嗣師 福岡・笹丘修道院 (城山助任)

▼オプス・デイ
裕 恵介師 長崎 (イタリア・ローマ)

なが さき せき ちょう
長崎石彫
ヨゼフ 岩永 博明
☎(095)862-2469
長崎市梁川町 6-17 岩永ビル

主の平安
株式会社 五島式典社(斎場) 五島中央会館 五島留会館
代表取締役 ヨゼフ 浦 昭
24時間営業
五島市上大津町 1385 番地 1 TEL (0959) 74 - 5551
FAX (0959) 74 - 5552
五島市奈留町浦 1899 - 1 TEL (0959) 64 - 3101
FAX (0959) 64 - 3102

主の平安
カトリック式葬祭・飾付一式
(有) **栄光式典社**
代表取締役 ヨハネ 西村 勇二
長崎市辻町 7-18 TEL (095)844-4011
24時間営業 FAX (095)843-9896

ミサ
日時
5月4日(日) 14時45分

コレジオと小神で卒業式



(鍋内正 志師)所 属の稲田 祐馬神学生1人であった が、召命減少の中にあっ て1人でもコレジオ生が 卒業し、大神学院に進学 できることは、教区にとっ て大きな励みとなる。

長崎コレジオ 第12回 長崎コレジオ卒業式が、 2月16日午後5時から大 浦教会で行われた。式は 山脇守院長によるみ言 業の祭儀の中で行われ、 6人の司祭をはじめ関 係者40余人が、卒業の喜 びと感謝を共にした。今 年の卒業生は八幡町教会

コレジオには、3人(長崎 教区2、鹿児島教区1) が在学している。彼らの ためにも祈りと励ましを お願したい。

卒業式の後、会場を水 辺の公園レストランに移 して祝賀会が開かれた。 司祭団や家族、ソロモン 友の会、大浦コレジオ会、 大浦教会信徒の方々と 祝福を受けた稲田神学生 は、晴れ晴れとした表情 で巣立っていった。4月 からは、宮崎翔太郎さん (三浦町教会)と青田憲 司さん(浦上教会)と共に、日本カトリック神学 院・東京キャンパスに入 学することになる。

長崎カトリック神学 院 2月28日、長崎カト リック神学院で卒業式が 行われた。卒業生は、赤 尾悠貴さん(浦頭教会)、 高木英世さん(福岡教区・ 青山教会)、黒丸恭介さん (同・武蔵ヶ丘教会)の 3人。式は、高見三明大 司教、岩崎晋吾師(浦頭 主任)、一ノ瀬輝幸師(武 蔵ヶ丘主任)、保護者と教 養講座の先生方を迎えて 行われた。



贈った。 式後の卒業パーティー ではシスターのおいしい 手料理をいただき、また 保護者の方々は親として の思いと感謝の言葉を 語った。在校生は、バン ド演奏や応援団、学年ご とに準備した手品やクイ ズなどを披露し、全員で 練習した「ウィ・アー・ ザ・ワールド」の合唱で 卒業生の門出を祝った。

今村へ信徒発見巡礼



参加者は、中 田輝次師、岩本 繁幸師、岩崎靖 彦師、鶴崎伸也 五島の司祭たち6人 が、2月17日から19日の 3日間をかけ、長崎の大 浦天主堂から福岡県三井 郡大刀洗町の今村教会ま でを徒歩で巡礼した。

大司教館で青年黙想会 「結婚・いのち」をテーマに 3月9日(日)、教区青 少年委員会(工藤秀晃委 員長)は大司教館におい て黙想会を行い、長崎・ 佐世保地区 から31人の 青年が参加 した。テー マは「結婚・いのち」。

師、川原昭如師(写真右 から)、2日目から合流 した下五島地区の山口竜 太郎師、さらに緊急事態 に備えて車で同行した松 田聡史師の7人。 初日は、信徒発見の舞 台となった大浦天主堂で ミサをささげた後、諫早 まで25kmを歩く。2日目 は諫早から有明海沿岸の 太良までの32km。浦上キ リシタンたちはここから 船を使って大川へ移動し ているが、巡礼団は車で 佐賀へ移動。最終日は佐

賀平野を34km歩き、今村 教会に到着した。今村で は100人ほどの信徒と 修道者が一行を出迎え た。到着後すぐに「当時、 今村を訪ねた浦上4信徒 のため」の意向で、感謝 のミサを共にささげた。 260年間待ち望んで いた司祭を得た浦上キリ シタンの喜び、その喜び を苦勞をもとめせず、に 伝えに行き、今村のキリ シタンと分かち合った喜 び、両方を味わう徒歩巡 礼となった。

会葬御礼

カトリック長崎大司教区司祭・ミカエル道向 栄神父の逝去につきましては早速ご丁寧なる弔 問・弔電ならびにご香典を賜り、葬儀の際にはご 会葬・献花の弔意に接しましたうえ、各教会・修 道院で故人のために祈りいただき、誠にありが たく厚く御礼申し上げます。 一々拝眉のうえ御礼申し上げるべきところ、紙 上をもって代えさせていただきます。 二〇一四年三月 カトリック長崎大司教区 大司教 高見 三明

お知らせ

●4月1日より、本部修 道院の名称が「マダレナ 修道院」に変わります。 ●7月1日より、原爆 ホーム修道院の名称が 「ベタニア修道院」に、住 所が「長崎市三ツ山町4 15・1」に変わります。

ご報告

●聖香油ミサ 4月15日 (火)10時30分、浦上教会。 ●教区評議会総会 5月 3日(土)10時、浦上教会(列 聖感謝ミサ)。 ●134回クルシリヨ 5月3日(土)6日(火)、イ エズス会立山修道院。問 合先・事務局長 西尾雅俊。 Tel.090-958533875

感謝

― 香典返 ― 長崎コレジオ ●匿名様(中町) 故ヨゼフ泊豊一郎様 長崎カトリック神学院 ●匿名様(中町) 故ヨゼフ泊豊一郎様 ●山崎秀代様(出津) 故マリア崎村リキ様 右の方々から「寄付・ご 芳志を賜りました。お礼 とご報告を申し上げます。

仮「提言案」修正

(1) 共通点 今年「カトリック教報」1月号 にシノドスの「提言案」最終段階 に向かつて」を掲載したが、同意、異 論、修正すべきとの意見が個人から、 そして団体から60件ほど寄せられ た。これによって皆さんのシノドス への関心の高さが伝わってきた。シ ノドス中央委員会は紙面を借り、あ らためて皆さんに深く感謝する。

それは、教区の方向性さえ明確にで きれば、対策として用いるいくつもの 具体的な事柄も自ずと調和していくこ とができ、教区一丸となつて教区の刷 新ができると考えてのことである。

(2) 修正点

「提言案」に対し当然反対、修正すべ きとの意見もあった。 カトリックセンターや一葉募金の活 用については反対あるいは大部分修 正が多かつ た。しかし、 すべての人 が反対では なく活用方 法を模索す

連載・教区シノドスから恵みの年へ⑧ シノドスへ提出する「提言案」作成へ

意見が反映されているのかを確認 するために仮「提言案」の提示と皆 さんからの意見収集を何度か繰り返 してきた。これに対し、くどいと言 われる方もいたが、やりとりを繰り返 すことで相互の理解が深まるもの と考えてのことであった。今回の 意見収集によって、さらに理解が深 まったと思う。

修道者、信徒がキリストの教えを実 践し、人間性を豊かにすることで刷 新できるのではと考えていること。 そして、教区は多くの問題を抱えて いるのに「提言案」では網羅してい ないとの意見もあったが、多くの人 はたくさん問題を一度に解決する ことは困難であるために重視すべき 問題点を絞り方向性を定める必要が あると指摘していたことである。

次に財政やカトリック学校支援につ いては地域差の考慮が求められ、司祭 養成に関しては厳しい意見と同情との 正反対の内容であった。さらに、カテ キスタ養成、福祉、信徒養成に関して は同意する意見が多かったが、特に「い のち」への関心が高く、そのための人 材確保、資金の確保、そして地域に活動 拠点の必要性がいわれていた。最後に

平和メッセージ & コンサート

3月2日、教区平和推 進委員会(岩村知彦委員 長)が主催する「世界平 和の日メッセージ&神父 さんとシスターが歌うコ ンサート」がカトリック センターで行われた。

これは昨年、福音化推 進部の4委員会(福 祉、人権、平和推進エ キュメニズム・諸宗教) が開催した「福音化フ ェスタ」に続いて企画され たもので、会場には約3 50人が集まった。

コンサートでは、シス ターたちのコーラス、赤 尾満治師(コンベンツァ ル聖フランシスコ修道 会)による自作の歌が披 露された。また、プロとし て活躍する音楽家ヒロ ヤマモトさんの特別参加 もあった。さらに、昨年8 月の沖縄体験学習に参加 した高校生の発表が行わ れ、これからの活動への 協力が呼び掛けられた。

岩村師は「この集いを 通して平和推進委員会の 活動を知っていただき、 多くの方々の協力をお願 いしたい。また平和を考 える思いが私たちの中に 育ち、それが信仰へと結 びついていけばありがた い」と語った。



東日本大震災写真展

3・11を風化させてはいけない



訪れた際、伊藤さんが町中を案内したことが縁で実現したものの。展示作品は、震災前の写真も含め、伊藤さんが震災翌日から記録として撮り続けた写真など300点以上で、震災直後から現在までの被災地の様子を伝える。

震災時、伊藤さん自身は町を離れていて助かったが、兄2人を亡くし、また自宅も職場も失った。自分のために記録としてこれまで撮り続けた写真は7000枚を超す。共有したいという気持ちから国内20カ所余の他、ドイツ・フランクフルトでも写真展を開催、反響を呼んだ。伊藤さんは「3・11を風化させてはいけない」と話す。

東日本大震災(2011年3月11日)で甚大な被害を受けた岩手県大槌町。この地で生まれ育ったアマチュアカメラマン、伊藤陽子さんの「東日本大震災写真展」が2月14・17日、長崎純心大学の主催により純心女子高等学校(長崎市文教町)の江角記念館で開催された。写真展は、被災者支援ボランティア派遣に取り組み同大の学生らが(長崎教会管区のボランティア拠点がある)大槌町を

支援、学生らによる活動報告会も行っている。3月10日の警察庁発表によると、大震災被害者数は死者1万5884人、行方不明者2633人。また2月13日現在復興庁(まとめ)の避難・転居者は26万7419人。

3・11あの日を忘れない

東日本大震災諸宗合同祈念式典



長崎県宗教者懇話会(会長 野下千年師)は3月9日(日)、東日本大震災諸宗合同祈念式典をカトリック浦上教会で開催。祈念した。会場には神道、仏教、キリスト教、新宗教関係者および市民約500人が集い、思いを一つにして、被災地の「あの日」と今に心を寄せた。キリスト教を代表して高見三司大司教が、「どうして悲惨な出来事があるのか答えを見いだすことはできませんが、あなたが亡くなられた方に安息をお与えになることを信じます」と祈った。式典では、雅楽、仏賛、聖歌が流れ、各宗からなる合同合唱団の歌声が

3人が信仰養成講座修了

これまでに1227人が資格取得



高見三司大司教は修了者にお祝いの言葉を掛けた。お祝いにとともに、よりいっそう学びを深めていくことの大切さを話した。また修了者を代表して、中町教会の田村豊子さんが関係者らに感謝を述べ、「社会の中で、教会の中で、全体的な見方の中で、信仰を深めたい」と思いました。受講中は1週間が待ち遠しく、「信友(信仰の友)」もできました。私は学ぶことを続けていきたいと思ひます」と力強く決意を語った。

3月2日(日)、教区生涯養成委員会(中濱敬司委員長)主催の2013年度信仰養成講座修了式がカトリックセンターで行われ、3人の修了者に要理教師2級資格証書が授与された。

募集者を祈念の思いへと導いた。佐世保から参加した住職の一人は「心にじんときた」と短く感想を語った。

広島・長崎の宗教者集う

第29回広島・長崎宗教者平和会議

命としての諸宗教対話を推進

広島宗教者連盟と長崎県宗教者懇話会は3月3日、広島・長崎宗教者平和会議を長崎大司教館で開催し、広島から前田万葉司教(広島教区)をはじめ8人、長崎から30人が参加した。今回は懇親会に先立ち、高見三司大司教がカトリック教会の立場から諸宗教対話についての講演を行った。「神は全人類の一致のためにアブラハムを選ばれ」「イエスも他宗教に対して開かれた方であった」にもかかわらず、カトリックが他宗教に対して排他的傾向が強い時代もあったことを認め、自身も子どもの頃は、寺や神社には行かないように言われていたことも告白した。現代は、第2バチカン公会議を経て、

短 信

●2月16日、平戸地区合同堅信式が紐差教会で行われた。平戸地区47人と相浦教会1人の計48人が堅信の恵みを受けた。●佐世保地区では地区北部の小教区が3月9日に樺崎教会で、また地区南部の小教区が3月23日に大野教会で堅信式を行い、大人と子どもを合わせて103人が秘跡にあずかった。

相浦教会 納骨室分譲中

問合先 カトリック相浦教会
〒858-0926 佐世保市大湊町 1022
TEL 0956-47-2442
FAX 0956-47-2494

白蟻調査無料・駆除工事5ヶ年保証付
白蟻防除施工士
大田白蟻研究所
代表者 マリア 大島 睦子
(〒850-0811) 長崎市矢の平1丁目14番15号
長崎 095-822-8436
FAX 095-822-8488

カリタス大槌ベースボランティア募集

- 5月15日(木)～21日(水) (4/30締切)
- 6月12日(木)～18日(水) (5/28締切)
- 7月10日(木)～16日(水) (6/25締切)
- 8月21日(木)～27日(水) (8/1締切)

申し込みは所属小教区へ。問い合わせは教区本部事務局(渡辺)まで。
TEL 095-842-4450 FAX 095-842-4460

ご先祖に心より感謝を・・・

材石 治明

長崎本店 長崎市城栄町13-1 電話 (095) 846-3598
大村店 大村市民霊園内 電話 (0957) 50-3008

みことばにふれて 105 岩下裕志神父 (浅子教会)



うことのない人は、幸いだ(シラ14:2) 自分が神学生の頃、モノというアイテムではなく先輩たちの姿や能力に憧れしました。特に大神時代、先輩がスータン(神

そして自分もできるようにしたいという欲望にも似た思いが、あれよあれよと自分をひっぱりあげて今に至っているような気がします。 いま、世の皆さんは誰に憧れているんでしょうか。アニメキャラ? ヒーロー? はたまたアイドル? 残念ながら神父様シスターという人をここ最近私は聞いてません。とはいえ、身近な人に憧れば憧れるほど、これから先の自分がよりくつきりと思えますよ。遠すぎちゃうとばやけちゃうんでね。自分の先を行く人は自分に夢を見せてくれます。『おまえもこうなれるぞ』『だからこうやってこい!』と足跡を見せてくれます。憧れただけ、『自分はこのようになるかもしれない』という可能性が広がります。とりあえず、今年ももうすぐ復活。まずはイエスさまに憧れてみてはいかがでしょう?



2月21日、上五島病院にて帰天。89歳。



2月20日、肺炎のため長崎市の光風台病院にて帰天。87歳。

アグネス

松井ミト修道女 (お告げのマリア修道会)

新上五島町頭ヶ島生まれ。1947年4月1日鯛ノ浦修道院入会。62年7月4日初誓願宣立。67年7月5日終生誓願宣立。入会後、鯛之浦教会の伝道師として、また53年修道院敷地内に開設された上五島伝道学校でカテキスタの養成にも携わる。その後、保育園・養

通夜は21日、葬儀・告別式は22日浦上教会で執り行われた。 前田万葉司教(広島教区)は、「仲知に生まれ、信者としての生き方を学んだ母にとって、教員だった父の転勤で故郷を離れることは、心身共に大きな負担だった。私の賭けも20年近くしてくれて。原爆症も含めて、これららの十字架をいつも犠牲としてささげていた」と話した。さらに、「父の死後、11人の子どもたちを育てた母だったが、中でも司祭と修道者になった2人のことが心配だったようだ。いつも2人の写真を枕元に置いて祈っていた」と語り、召命の道を共に走り通した母親への感謝を述べた。

旧出津救助院を運営する一般社団法人『ド・ロさまの家』からのお知らせ

- ①ド・ロ神父ゆかりの茶畑の茶摘み協力者募集
●実施日 2014/5/3(土)
- ②ド・ロさまツアー(ド・ロ神父没後100年記念)
●実施日 毎月第2金曜日
2014/5/9、6/13、7/11、8/8、9/12、10/10、11/14、12/12、2015/1/9、2/13、3/13
*ゆかりの地を訪ねる、旅行者との共同企画

問い合わせ先

旧出津救助院(所有者 お告げのマリア修道会)
〒851-2322 長崎市西出津町2696番地1
Tel 0959-25-1002 Fax 0959-25-1006
E-mail: kyujoin@dorosama.jp